

基本構想

第1章 伊豆市の将来像

第2章 まちづくりの重点目標

第3章 土地利用構想

第 1 章 伊豆市の将来像



1 めざすまちのテーマ

本市が将来にわたって魅力ある地域として発展していくためには、市民主体の協働によるまちづくりを進めるとともに、まちの活力を最大限に引き出し、市民の皆さんがふるさとへの誇りや希望を持って、元気で幸せに暮らすことができる環境を整えることが重要です。

私たちは、このことを基本とし、市民一人ひとりの本市に寄せる愛情と未来へかける熱い想いや行動力を結集し、他に類のない貴重な地域資源や伊豆縦貫自動車道の南進といったチャンスを生かしながら、伊豆半島の広域的な交流拠点として、「人」と「まち」がいきいきと光り輝く、住んでよかった、いつまでも住み続けたいと心から思えるような魅力と活力にあふれる「持続可能なまち」を創造するため、次の「めざすまちのテーマ」を掲げます。

自然・歴史・文化が薫る 誇りと活力に満ちた

クロスロード

「伊豆半島の新基軸」・伊豆市

～いつまでも住み続けたい 次世代に笑顔をつなぐ礎づくり～

2 めざすまちのイメージ

まちづくりの基本方向を明らかにするための、「めざすまちのイメージ」を示します。

まちの「形」

～ネットワーク型コンパクトタウン～

誰もが住み慣れた地域でいきいきと心豊かに暮らし続けられるよう、各地域において、利便性や快適性が高く、人が集い賑わいのある拠点を創造するとともに、拠点間を結ぶ交通軸の強化などによる機能連携や他圏域との交流・広域連携を図るネットワーク型コンパクトタウンの形成を推進します。

まちの「色」

～風情と風格が漂う国際的な観光文化環境都市～

日本の原風景ともいえる水と緑に包まれた豊かな自然や温泉、先人たちが育んできた歴史・文化など、本市ならではの多彩な魅力や特徴を大切に守り、生かすとともに、伊豆半島の東西と南北の軸が交わる交流の拠点として、他都市には決して真似のできない、風情と風格が漂う国際的な観光文化環境都市の実現に取り組みます。

まちの「力」

～地域への愛着や誇りを基調とした多様な主体による協働と連携～

少子高齢化や人口減少の進行、コミュニティ機能の低下が懸念される中で、人と人、人と地域のつながりを支えるとともに、郷土の自然や歴史・文化に触れ、守り、育むことを通じて、地域への愛着や誇りを醸成することにより、本市を愛する多様な主体の情熱や英知、行動力の結集による協働と連携に取り組みます。

3 将来人口設定

将来人口については、「伊豆市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を踏まえ、平成 37 年度の設定人口を **28,500 人** とします。

第2章 まちづくりの重点目標



1 魅力あふれる拠点の創造と交通体系の確保

少子高齢化や人口減少が進む中で、子どもからお年寄りまで、誰もが安心していきいきと心豊かに暮らせるまちをめざし、生活利便性が高く、ヒトやモノ、そして知識や情報が集う賑わいのある拠点の創造に取り組むとともに、交通結節機能の整備や地域の実情に応じた公共交通網・道路網の強化による地域内移動の円滑化や拠点相互の機能連携を進める「コンパクトタウン&ネットワーク構想」を推進します。

修善寺駅から徒歩圏内を中心市街地として、賑わいと回遊性のある歩いて楽しい魅力あるまちづくりを進めるとともに、市街地周辺については地域の特性を生かした機能を配置します。

中山間地域である土肥、天城湯ヶ島、中伊豆地区などでは、既に形成されている地域拠点や生活拠点、産業・観光拠点の有効活用のほか、地域の自然的・社会的特性を踏まえた拠点性の高いエリアへの拠点化の促進を図り、誰もが住み慣れた土地でいつまでも元気に生活できる環境の整備に努めます。

また、伊豆半島の東西と南北の軸が交わる広域的な拠点として、伊豆半島地域全体を牽引する活力ある地域づくりに向けた交流と広域連携を推進します。



2 安全で心地よい生活環境の創出

市民一人ひとりが自らの健康を意識し、心身の健康づくりへの取組を促進するとともに、適切な健康・医療、福祉サービスを受けられる体制を整備します。また、高齢化が進行する中で、自らの経験や知識を生かした社会参加や社会貢献により、健康的で生きがいを持って生活できる環境整備を図ります。

快適な暮らしの実現に向けた心地よい居住環境の整備を推進するとともに、歴史・地域性を生かした風情ある景観の形成や緑の創出につながる公園や緑地の充実を図るなど、美しく魅力のあるまちづくりを推進します。

さらに、水源の森や狩野川など、次世代にかけがえのない豊かな自然環境を継承するための保全活動を促進するとともに、地域防災力のさらなる向上を図ることで災害に強いまちづくりを進めます。



3 産業力の強化

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックの国内開催を契機に、総合産業である観光を中心に「稼ぐ力」を強化します。そのためにも、東京 2020 大会の競技開催市としてのブランド力に併せ、海、森林、河川などの自然環境の豊かさ、大自然が創りあげた見事な景観、豊富な温泉、歴史・文学の舞台となった温泉街など、豊富な地域資源や特色を生かして個性を磨き、地域住民、観光客双方にとって魅力を感じる風情と風格が漂う国際的な観光文化環境都市をめざします。

地域住民はもとより、農林漁業、商業、サービス業、行政などの多様な主体が参加のもと、観光交流を担う人材の育成を図るとともに、美しい伊豆創造センターを中心に、ジオパークやインバウンド(外国人観光客誘致)の推進など、伊豆半島を世界ブランドとして確立・発信するための取組を伊豆半島全体で官民連携により進めます。

また、本市の環境に適合する企業誘致や企業留置に取り組み、新たな雇用を創り出すとともに、6次産業化の推進など次の世代につながる農林漁業の振興を図ります。さらに、起業をめざす市民の支援や空き店舗の活用を促進するなど、生活支援サービス産業の育成を図ります。



4 まちへの誇りの醸成とブランド力の向上

子どもから高齢者に至るまで、誰もが安心して心豊かに充実した暮らしを実感できるよう、自然・伝統文化など本市の良さを守り、育て、伝えていくための取組を進める中で、地域への愛着や誇りの醸成に努めます。さらに、より多くの人たちが、まちづくりの担い手として、いきいきと活躍できる仕組みを充実させることで、それぞれの地域の特性を生かした地域主体のまちづくりを展開し、キラリと光る人と活力に満ちあふれるまちをめざします。

また、東京 2020 大会の自転車競技開催市として、大会成功に向けた取組などを通じ、市民の郷土に対する愛着や関心を高めるとともに、五輪開催を契機として生み出される有形・無形の資産や持続的な効果など、本市だけが持つ地域の特性や資源を生かしつつ、隠れた資源の掘り起こしや新たな価値の創出を進め、その魅力を市内外に発信することにより、知名度や好感度の向上を図ります。



5 少子化対策と次代を担う人材の育成

地域の中で安心して子どもを産み、健やかに育てられる環境づくりを進めるとともに、結婚生活や子育ての素晴らしさを伝え、結婚を望む人たちに出会いの場を提供するなど、子どもを持つことをまち全体で応援します。

次代を担う本市の子どもたちが、確かな学力や国際的な幅広い視野を身につけるとともに、人を思いやる心・感動する心などの豊かな人間性や生きる力を育むことができるよう、家庭・地域・学校が一体となった教育を進めます。

また、児童・生徒の減少に対応した教育環境の整備を図りながら、心身の健やかな成長を支える特色ある学校づくりを進めます。



めざすまちのテーマ

自然・歴史・文化が薫る 誇りと活力に満ちた

クロスロード

「伊豆半島の新基軸」・伊豆市

～いつまでも住み続けたい 次世代に笑顔をつなぐ礎づくり～

めざすまちのイメージ

まちの「形」

ネットワーク型
コンパクトタウン

まちの「力」

地域への愛着や誇りを
基調とした多様な主体による
協働と連携

まちの「色」

風情と風格が漂う
国際的な観光文化環境都市

まちづくりの重点目標

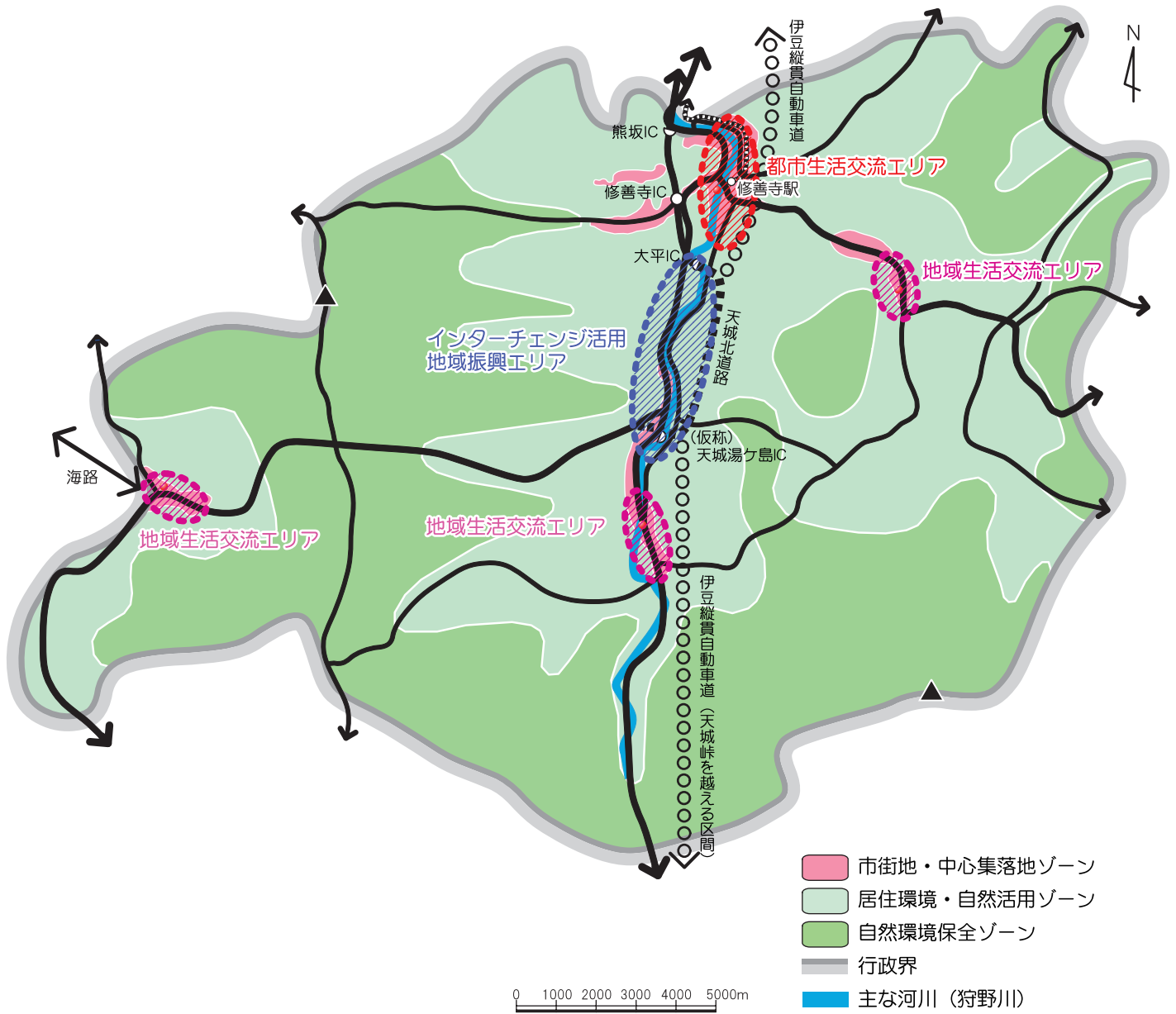
- 1 魅力あふれる拠点の創造と交通体系の確保
- 2 安全で心地よい生活環境の創出
- 3 産業力の強化
- 4 まちへの誇りの醸成とブランド力の向上
- 5 少子化対策と次代を担う人材の育成

平成 37 年度の設定人口：**28,500** 人

第 3 章 土地利用構想



土地利用構想図



1 ゾーン区分

本計画では、市の地形条件、社会条件等を考慮し、次のとおり3つのゾーンに区分するとともに、3つのエリア形成をめざします。

市街地・中心集落地ゾーン

住宅地・商業地を中心に、生活道路、上下水道等の基盤整備に努め、秩序ある生活環境を形成します。また、定住促進に寄与するため、適正な宅地化の誘導と併せ、身近な公園・広場の適正配置を進めます。

居住環境・自然活用ゾーン

集落地と農地のバランスを保ち、身近な公園緑地、運動施設、レクリエーション施設等を有効活用していきます。農地の適切な維持に努め、無秩序な宅地化を防止し、道路、上下水道等の基盤を効率よく維持管理します。

なお、山林や河川の危険箇所における災害対策を進めます。

自然環境保全ゾーン

天城山系や達磨山山系の国立公園を主体に自然環境を保全します。国土保全、水源涵養、良好な景観形成等の公益的機能を持つ森林の育成・管理や林道等の整備に努めます。



2

エリア形成

都市生活交流エリア

修善寺駅から半径 1km 程度の範囲を中心地として位置づけ、病院・教育施設・商業施設等の都市機能を集積するとともに、適正な宅地化の誘導に併せ、生活道路の改良、身近な公園・広場の適正配置など都市基盤整備を進めます。

伊豆市の玄関口である修善寺駅周辺においては、良好な景観形成や歩いて楽しい歩行者空間の整備など、中心市街地周辺の魅力ある空間の創出に向けた総合的な整備を計画的に進めます。

インターチェンジ活用地域振興エリア

天城北道路 大平インターチェンジ周辺及び（仮称）天城湯ヶ島インターチェンジ周辺については、交通利便性を生かし、地域内連携による 6 次産業化や産業創出など、地域特性に応じた適正な土地利用を誘導します。

また、エリア内においては、幹線道路沿いに商業施設等の日常生活機能が集積していることから、これらの機能維持に努めるとともに、交通利便性を生かし、地域活性化を図ります。

地域生活交流エリア

生活・交流の拠点として、公共公益施設周辺において、身近な商業施設、交流施設等の日常生活機能を集約し、維持します。併せて交通結節点整備を行うことで、中心市街地や周辺集落とのネットワークを強化し、持続可能な地域の形成を図ります。

土肥温泉周辺地区においては、海上交通を利用した観光交流の拠点として、景観創出や歩行者空間整備に取り組むとともに、健康増進、レクリエーションの場として環境整備を進めます。

湯ヶ島地区は、文学に関連した多くの歴史文化資源を有しており、地域振興に有効活用するため、旧湯ヶ島小学校を中心に文学の郷を形成し、地域活性化を図ります。

中伊豆支所周辺は、新こども園の整備と併せて公共施設の再配置を行い、公園・広場などの人が集まる魅力ある空間の整備を推進し、良好な子育て環境及び地域活動の場の形成を図ります。